

✍ 取組概要

- 庁内において男女共同参画を推進するため、男女共同参画に関する会議や研修を実施
- 入庁3年目の職員に対して防災士養成研修を実施
- 災害対応は性別に関わらず全員が行う業務であるという意識が全庁的に高まり、防災関係部署の女性職員の割合が庁内の男女比率に近づいている(約30%)

取組のきっかけ 『全ての職員が、災害対応に取り組めるようにしたい！』

高知市として、市全体の女性職員の割合が増えてきており、職員の男女比は半々だった。



庁内における男女共同参画の推進や、入庁3年目職員全員に対する防災士養成研修を実施してきたことで、全庁的に男女共同参画や防災に関する意識が高まった。

女性も防災分野に参画することが当たり前になり、防災部局にも他の部局と同様に女性職員が配属され、女性職員の割合が約30%に。

防災部局と男女共同参画部局が連携しながら、あらゆる部署の職員が性別に関わらず災害対応に取り組めることを目指そう！

高知県
高知市 防災政策課
人権同和・男女共同参画課

電話：(防災)088-823-9055 / (男女)088-823-9449
(防災)<https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/135/>
(男女)<https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/124/>

高知市HP▶
(防災)/(男女)



35

事例14 「男女共同参画と防災のそれぞれの研修で職員の意識が根付き、防災に女性が参画することが当たり前に！」 高知県高知市

【取組概要】

- 庁内において男女共同参画を推進するため、男女共同参画に関する会議や研修を実施しています。
- 入庁3年目の職員に対して防災士(※)養成研修を実施しています。
- 災害対応は性別に関わらず全員が行う業務であることを全庁的に意識付け、防災関係部署の女性職員の割合が庁内の男女比率に近づいています(約30%)。

【取組のきっかけ】

- 年々、高知市役所全体の女性職員の割合を増えてきており、職員の男女比は半々となっていました。
- その中で、庁内の男女共同参画推進本部会による会議や研修などの実施や、各部署への男女共同参画推進員の設置などの取組を実施したり、人事課による入庁3年目職員全員に対する防災士養成研修を実施してきたことで、全庁的に男女共同参画や防災に関する意識が根付きました。
- その結果、女性も防災分野に参画することが当たり前といった意識が醸成され、防災部局にも他の部局と同様に女性職員が配属されるようになり、女性職員の割合が約30%になりました。
- 現在は、防災部局と男女共同参画部局が連携しながら、あらゆる部署の職員が性別に関わらず災害対応に取り組めることを目指しています。

※「防災士」は、「自助」「共助」「協働」を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人です。
(<https://bousaisi.jp/aboutus/>)

1 それぞれの研修により、全職員の男女共同参画と防災の意識を浸透！

庁内における男女共同参画推進体制

- 市長を本部長に据え、**階層別に組織を設け**、それぞれで男女共同参画に関する会議を実施している
 - 年2回、本部会会議**を実施し、計画や活動実績などの報告を行っている
 - 若手・中堅の職員を集めてチームを作り**、研修を受講してもらい、**テーマに関する取組と成果発表**を行っている

こんないいことがあった！



男女共同参画の意識が浸透してきており、防災会議の充て職以外の幹事に**女性職員を推薦**するよう協力してもらえた！

全庁的に意識をアップデート！



防災士の資格や防災の知識を持つ女性職員が増えてきた！

フォローアップ研修でスキルアップも！



防災士養成研修

- 入庁3年目の全職員に対し、**防災士養成研修**を実施している
 - 防災士資格を取得した2年後には、**スキルアップのためのフォローアップ研修**を実施している

これをやったらうまくいった！



①それぞれの研修により、全職員の男女共同参画と防災の意識を浸透！

<庁内における男女共同参画推進体制>

- 庁内における男女共同参画推進体制として、市長を本部長に据え、部長級で組織する「本部会」と、その下部組織として課長級で組織する「幹事会」を設け、それぞれで男女共同参画に関する会議を実施しています。本部会では、年2回、本部会会議を実施し、計画実施案や活動実績などの報告を行っています。幹事会では、実務上の観点から協議するため若手・中堅の職員を集めてチームを作り、男女共同参画に関する研修を受講してもらい、幹事会で決めたテーマに関する取組と成果発表を行っています。これらの活動により、全庁的に男女共同参画の意識が浸透してきており、防災会議の充て職以外の幹事に女性職員を推薦するよう協力してもらうことができました。

～これまでのテーマ～

- DV防止啓発
- ワークライフ・バランス
- 性の多様性

<防災士養成研修>

- 平成25年度から、人事課が入庁3年目(平成30年度までは入庁3年目、9年目の職員が対象)の職員に対して「防災士養成研修」を実施しており、平成31年度からは、防災士資格を取得した2年後に受講できる「スキルアップのためのフォローアップ研修」も実施しています。それにより、防災士の資格や防災の知識を持つ女性職員が増えました。防災士養成研修は平成29年度から「れんけいこうち広域都市圏※」の連携事業として実施しており、他市町村の職員も参加することができます。

※「れんけいこうち広域都市圏(連携中枢都市圏)」高知市では、県内33市町村それぞれと地方自治法に基づく連携協約を締結して、県全域で「れんけいこうち広域都市圏」を形成しています。
(<https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/2/renkeikochikeisei.html>)

2 あらゆる部署の職員が災害対応に取り組めるよう、事前に対策！

防災に関する周知

- 採用の段階から、研修等の機会を通じて、あらゆる部署の職員が性別に関わらず災害対応に取り組むべきであることを伝えている
- いざというときに備え、子どもなどの預け先を確保しておくよう周知している

こんないいことがあった！



全ての職員が災害対応に関わることへの意識が高まり、防災部局に女性職員が配置されることが当たり前になった！

全職員が災害時にも働きやすいように改善！



負担の軽減

- 避難所の開設頻度によって特定の職員に負担が偏ることを防ぐため、複数の避難所を十数人で担当することで交代できるように改善を行った

これをやったらうまくいった！



職員から上がった避難所運営等に関する意見を防災部局が吸い上げ、解決に向けて丁寧に対応することで、災害対応を行う職員の負担の軽減や不安の解消につながった！

②あらゆる部署の職員が災害対応に取り組めるよう、事前に対策！

<防災に関する周知>

- 職員として採用された段階から、研修等の機会を通じて、あらゆる部署の職員が性別に関わらず職務として災害対応に取り組まなければならないことを伝えています。また、夫婦ともに職員である場合もあるため、いざというときに備え、子どもなどの預け先を確保しておくよう積極的に周知しています。これらの取組により、全ての職員が災害対応に関わることへの意識が高まり、防災部局に女性職員が配置されることが当たり前になりました。

<負担の軽減>

- 避難所の開設頻度によって特定の職員に負担が偏ることを防ぐため、複数の避難所を十数人で担当することで交代できるように改善を行ってきました。これにより、災害対応を行う職員の負担の軽減や不安の解消につながりました。現在も全職員が災害時にも働きやすいように改善を続けています。